

# 羽曳野市立誉田中学校 令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

## 【0】はじめに

調査要領に記載されていますとおり、本調査結果は、本校生徒の学力や学習状況、生活習慣を一定把握するものです。この調査結果を分析することで、本校のこれまでの取組みの成果と課題を把握し、これからの取組みの方向性を検討してまいります。

(令和7年4月・3年生にて実施)

## 【1】結果分析

### 【国語】

成 果 と 課 題	<p>○漢字の読み書きや基本的な文法、単語単位の意味理解など、基礎的な国語力は身についている。知識・技能に関する設問では正答率が高く、無解答率も低いことから、日々の学習の積み重ねが成果として現れている。</p> <p>○文章を読む上で必要な基礎的な語彙(一般的な単語や表現)の理解はおおむねできている</p>
	<p>○「しきりと」など事象・行為を表す語彙の理解を問う問題で、府平均 60.5%に対し、本校 52.4%とやや低く、語彙理解が不足している傾向が見られる。</p> <p>○発表用スライドに関する設問では、「内容をよりわかりやすく伝える工夫」や「自分の考えを書く力」への対応が極端に低く、情報を整理し、伝える力に課題がある。</p> <p>○「自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にして書く」設問において、大阪府平均 27.8%に対し、本校は 17.1%と低く、思考力・表現力に課題が見られる。</p> <p>○全体を通して、記述式問題での無解答率が高く、自分の意見を具体的に書くことや考えを整理して表現する力が十分育っていない。</p> <p>○「発表内容をわかりやすく伝えるためのスライド作成」に関する設問での正答率が低く、情報を整理し伝える力や表現の工夫が不足している。プレゼンテーションや発表の機会が少ないことが背景にあると考えられる。</p>
改 善 方 針	<p>○意見や根拠を明確にして記述する練習を、日常の授業で意識的に取り入れる。</p> <p>○文脈に応じた語彙の使い方や意味理解を深める語彙指導を強化する。</p> <p>○ICTを活用した発表活動や意見発信の機会を増やし情報を整理して伝える力を育成する。</p>

## 【数学】

成 果 と 課 題	<p>○[3]「外角の大きさを求める」や[5]「相対度数を求める」など、語句への理解を問う問題で、正答率が、[3]においては全国平均より、[5]においては大阪府平均より高い。</p> <p>○「素数」についての基礎的な理解を問う問題の正答率が低い。([1] 22.5%)</p> <p>○「関数」から読み取れることを問う問題の正答率には大きな差はないが、([8(1)] 66.7%)</p> <p>基礎的な概念の理解を問う問題の正答率は低い([4] 27.5%)</p> <p>○「証明を完成する」や「証明する」問題の正答率が低い。([9(2)] 26.5%, [9(3)] 20.6%)</p> <p>○「方法を説明する」や「証明する」問題の無解答率が極めて高い。([8(2)] 48.0%, [9(3)] 50.0%)</p>
改 善 方 針	<p>○基礎・基本となる計算や語句の意味の理解を深めることと、「説明する」ことへの抵抗感をなくすために、授業の中「言葉の意味を説明し合う」活動を積極的に取り入れる。</p> <p>○「図形の証明」については、概念的な理解は一定の水準に達していることが[9(1)]からうかがえるため、証明の記述の意味や方法について、経験をもとに理解できる授業を行う。</p>

## 【理科】

成 果 と 課 題	<p>○平均正答数の値は 2.8/6 で、大阪府を上回ったが全国の値よりは少し低くなった。(大阪府 2.7/6, 全国 2.9/6) これに関しては、下位層(1・2)の割合が 33.9 で府(37.4)と全国(31.5)の中間程度に属しているが、上位層(4・5)の割合が 21.1 で府(23.1)全国(26.5)を下回っているが、中間層(3)の割合 45.0 で、府(39.4)全国(42.0)を大きく上回っていることが原因であると思われる。</p> <p>○「エネルギーを柱とする領域」における正答率が全国を上回っている。(5 問中 3 問)</p> <p>○「粒子を柱とする領域」における正答率は大阪府を上回っている。(8 問中 6 問)</p> <p>○「生命を柱とする領域」に関しては府平均を上回っている。(5 問中 3 問)</p> <p>○「地球を柱とする課題」に関して 5 問中 4 問全国を下回った。(府平均よりは高い)</p> <p>○「スケッチ」に関する問い合わせでは 2 問とも府を下回る結果になった。</p> <p>○「実験で精製水を使う理由」に関する問の正答率が低い。</p>
改 善 方 針	<p>○重要項目の知識理解をより深めていくために、身の回りの自然現象や物質の変化、物理現象などに常に関心を持たせることに努める。とりわけ「地球を柱とする課題」においては、気象の変化や地域の地層や地殻変動などについての考察を深めさせていくことに努める。</p> <p>○すべての自然現象や化学変化・物理現象などに対して、科学的な説明ができる(言語化すること)を意識させるような課題に取り組ませる。</p> <p>○知識理解をより定着させるため、問題演習の時間を積極的に取り入れる。</p>

## 【2】生徒アンケート結果 ○設問 ( )は設問番号

### 1 生活習慣について

「毎日、同じくらいの時刻に寝ている・起きている」項目に対して、「している」と答えた生徒の割合は大阪府を大きく下回っています。「どちらかといえば、している」を含めた肯定的な回答では、大阪府と大きな差がないことから、生活リズムがやや不安定な生徒が多いことがわかります。自律した生活を行い、安定した生活リズムとなるよう、学校でも指導していきたいと思います。

#### ○毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。(2)

	している	どちらかといえば、している	肯定的な回答
本校	29.1 %	48.2 %	77.3 %
大阪府	34.1 %	46.1 %	80.2 %
全国	34.0 %	47.0 %	81.0 %

#### ○毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。(3)

	している	どちらかといえば、している	肯定的な回答
本校	46.4 %	44.5 %	90.9 %
大阪府	54.8 %	37.0 %	91.8 %
全国	54.7 %	37.9 %	92.6 %

### 2 家庭学習について

休日の学習の時間について、「1時間未満」「全くしない」の割合が、府・全国平均を大きく上回っています。このアンケートは4月に実施したものであるため、現状とは差異があることも想像できますが、自ら見通しをもって取り組むことができるよう、継続的に指導・声かけをしていきます。

#### ○土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

	4時間以上	3~4時間	2~3時間	1~2時間	1時間未満	全くしない
本校	1.8 %	6.4 %	8.2 %	19.1 %	19.1 %	38.2 %
大阪府	5.5 %	7.6 %	14.8 %	20.4 %	24.1 %	24.3 %
全国	5.3 %	8.5 %	18.7 %	25.4 %	24.1 %	15.4 %

### 3 教育活動について「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」の合計値

「自己肯定感が低い」という傾向は本校においても全国や府と同様の傾向が見られます。これは友達関係への満足度、学習への理解度などを含め、学校に行くのが楽しいかという項目にも関係すると考えられます。本校では、班活動を中心とした集団づくりを行い、生徒同士の対話が生まれるよう取り組んでいます。また、カウンセリング期間を設けるなど、教職員と生徒の対話を大切にし、生徒理解に努めることをめざしています。卒業に向けて、生徒の小さな困り感や変化に気づけるよう、教職員一同、連携を密にして教育活動を行ってまいります。

○自分にはよいところがあると思いますか(5)

本校	82.7 %
大阪府	84.0 %
全国	86.2 %

○友達関係に満足していますか(14)

本校	86.4 %
大阪府	90.5 %
全国	91.4 %

○分からぬことや詳しく述べたいことがあったときに、  
自分で学び方を考え、工夫することはできていますか(16)

本校	80.0 %
大阪府	84.3 %
全国	86.1 %

本校	71.8 %
大阪府	78.0 %
全国	77.5 %

○困りごとや不安がある時に、先生や学校に  
いる大人にいつでも相談できますか(10)

本校	73.6 %
大阪府	74.7 %
全国	73.2 %

○先生は、あなたのよいところを  
認めてくれていると思いますか(6)

本校	95.5 %
大阪府	92.1 %
全国	92.2 %